

平成 25 年度 総合問題（生活科学科 生活科学専攻）解答例

1 (70 点)

問 1 (3 点×4=12 点)

- ① 掲 ② きょうい ③ 無駄遣 ④ 先見性

問 2 (6 点×3=18 点)

リデュース：Reduce；資源の無駄遣いをなくすことや捨てるごみを減らすこと。

リユース：Reuse；使えるものやその一部を再使用・再利用すること。

リサイクル：Recycle；使えなくなったものを新たな製品の原料として再生利用すること。

問 3 (20 点)

食事のとき、安易に食べ物を残して、食べ物
の大切さやありがたくいただくことを忘れて
いるため。快適さを求めて、まだ使える電気
製品を新製品に買い換えて、限りある資源を
浪費しているため。(89 字)

問 4 (20 点)

3つのRの取り組みは、すべての人が対象で、
私たち一人ひとりの生活のあらゆる面にあて
はまるため、一人ひとりの取り組みが集まる
ことにより、地域、国、世界全体を変える大
きな力となると考えるから。(94 字)

2 (70点)

問1 (25点)

【解答のポイント】

- ・社会全体で解消する取組みが必要になることが示されていること
- ・基本的な文章表現ができていること

【解答例】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が根強く残っていると、その意識による習慣や生活スタイルにとらわれてしまい、女性の社会進出や多様な生き方の選択の妨げになるだけでなく、男女間の不平等を生み出す可能性もある。仕事や家事、育児など、性別で役割を固定的に考えるのではなく、男性と女性が協力しあって行う必要がある。男女平等の社会の実現を目指すためにも、社会全体で解消していく取組みが必要である。(195字)

問2 (25点)

【解答のポイント】

- ・表1からは年次別推移、表2からは世代間、および性別間の考えの違いの2点について述べられていること
- ・基本的な文章表現ができていること

【解答例】

表1から「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する割合は、最近に近くなるほど低くなり、反対する割合が高くなっている傾向にある。しかし、表2を見ると男女ともに、肯定する割合が70歳以上で高く、年齢が低くなると反対する割合が高くなる傾向にある。また、どの年代においても、女性のほうが反対する割合が高くなっている。このことから、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきで

ある」という考えは年々解消されているものの、男女間、年齢間において考え方に差があるといえる。(235字)

問3 (20点)

【解答のポイント】

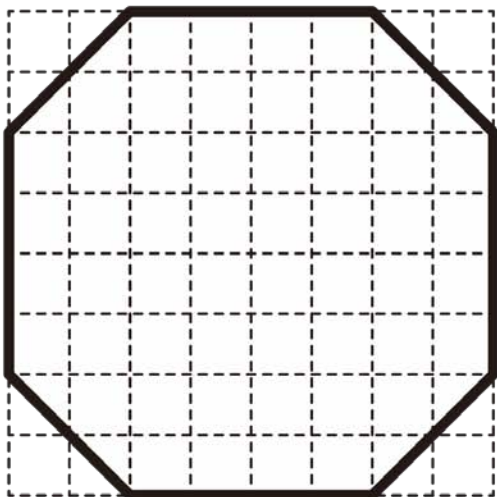
- ・表3, 4から、東京都と鹿児島県の調査結果の特徴を比較して違いが示されていること
- ・基本的な文章表現ができていること

【解答例】

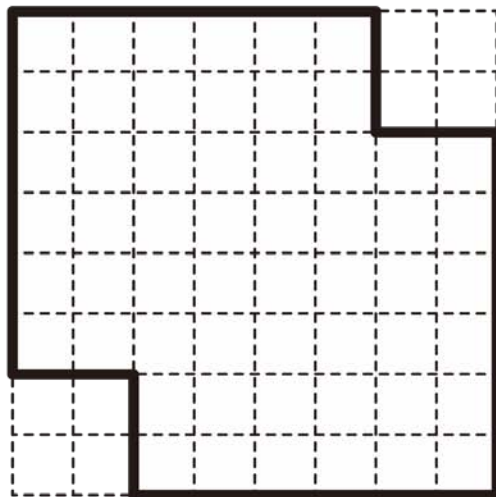
表3の東京都の調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する割合が高くなっている。しかし、表4の鹿児島県の調査では、東京都の調査とは反対に賛成する割合が高くなっている。このことから、地域によって考え方に差がある可能性があることがわかる。(132字)

3 (60 点)

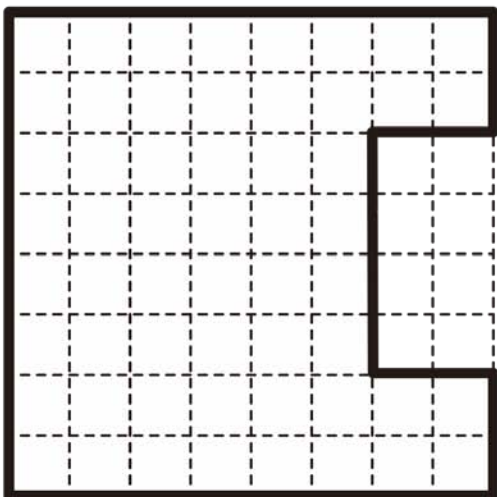
A



B



C



D

